

皆様、いつも温かい励ましのメールをありがとうございました。本当に元気ができました。
つたない作文を少々

「地震直後から1時間」

あの日は入所説明会があり、たまたま新入児のあかちゃんをあやしていたら、突然のゆれ、地震だと気づき、慌ててお母さんに返して、昼寝から、起きがけのホールに戻ろうとしました。4、5メートルの距離でしたが体が横に揺れて泳ぎように進むしかありませんでした。子どもたちは一塊になってそのうえに たくさんの布団がかぶさり、その周りを職員みんなでかばい合ってゆれが間も無く収まるだろうと待っていました。ホールの壁がまるで生きているかのようにあちらが近づけばこちらが遠ざかり始めてみる光景が現実なのかと信じられないことと、今度壁が近づいたら死ぬかもと実感しました。

天井の扇風機が外れかけ（安全用の鎖つきでしたが）、何度も大丈夫と周りで声かけながら待っても収まりませんでした。子どもたちはかなりの長い時間布団のトンネルの中にいたのですが、周りがゆれる現状をみていないことが良かったようで、にこっと笑って顔を上げて少し笑い合っていました。

職員も意識して声も荒げず（今思えば逆に怖い？）、すぐ所長判断で園庭の真ん中に移動することにしました。一人ひとりに服を着せてジャンパーも着せて外靴を履かせて、園庭の中央にごぞをしき保育所の子ども全員が集まりました。外にでたとたん吹雪いてきて、本当に天の神様を恨みました。毛布で囲み 何枚かのブルーシートで上を覆い、子どもたちの中央にいた私が中央の芯の役になってブルーシートをまとめてずっと持ち続けました。風が吹き込んでき始めたら、すぐダンボールで周りを囲みはじめました。すると、もうなかはモンゴルのテントのような空気になりました。おやつに出す予定だったのが焼き芋で、テントのなかで子どもたちはほっと食べていました。職員の何人かは、なかで子どもたちを励まし他の職員は必要なものを保育所から持ち出して、本当に自分たちが信じられないくらいのすごいチームワークでした。（今はまだ16：00、日没まであと1時間）

心配してくださった皆様に、仙台でもかなり状況的に恵まれた私の保育所の様子を少しでもお伝えできればと、打ち始めたのですが、やはり考えると涙が出てしまいます。続きはまた次回にします...

公立保育所は通常保育です。被害のひどいところは他の保育所で分散して保育をします。私の保育所の子どもたちは5人くらい来ています。学校が休みのこともあるので今週だけだと思います。私たちは毎日基本8時30分から5時まで仕事をしています。ガソリンもなくなり徒歩や自転車で1時間近くかかって くる人が多くなっています。正直なところ自分の食べ物や必要な買出しは難しいです。公務員なんだなあとわかりました。明日は私は大変な他の保育所へ応援に 行きます。各保育所へ運ぶ物資の受け取りや仕分けです。自転

車が久しぶりなので緊張します。かなりふらふらです。29日の編集委員会も欠席します。よろしくお願ひします。

人事異動も5月1日付けとなりました、変則で1ヶ月だけクラスがそのまま持ち上がりです。そして5月の人事異動の後、クラスの担任が変わります。毎日が明日どうなるのかの緊張がきついです。あちこちの中身ですみません。

最後に昨日、全国の保問研の人に呼びかけてもらえないかとダンプから頼まれました。津波で流されたわらしこ保育園のために基金を募っています

店コード410 七十七銀行新中里支店 口座5091756 わらしこ保育園代表 高田敏幸

会員の一人として季刊に載せてもらえるものか、全国保問研としてどう決めてもらえるのかわかりませんが、津波の中を子どもたちを守りながらようやく生き延びたダンプのこと、検討してもらえますか？どうぞよろしくお願ひします。

変な中身だなあとと思いますがお許してください。

本当にみんなに心配してもらっていることで元気をもらいました。ありがとうございました。まずはお礼まで...仙台 三浦和恵(水がまだ復旧せず)